

1 クールくらしきアクションプランの改正に伴う倉敷市第三次環境基本計画目標値の再設定について

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
1	今回設定した目標を達成するにあたり、新たな政策などは考えているのか。	今後技術革新で生まれる新たな技術を駆使するとともに、市民や事業者の意識を地球温暖化防止に向けた生活様式へ変容させ、カーボンニュートラルにつながる行動を無理なく行えるような啓発も重要と考える。
2	目標までのペースについて、毎年度同じだけの削減割合で推移しているが、この推移で削減可能ということも考慮したうえで審議したのか。	本来は、後年ほど技術革新の実現可能性が高く削減率も高くなるのが適切と考えられる。ただ、そうした要素を考慮して計画に組み込むことが困難であったことや、国の目標が目標値同士を直線で結び設定しているということもあり、このように決定した。

2 倉敷市第三次環境基本計画の進捗状況等について

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
1	身近な地域の緑の量が多いかどうか、というアンケートについて、身近な緑というものをもう少し説明し、分かりやすく言い換える等した方が、回答の結果にぶれが生じないのではないのか。	アンケートの質問方法について、市がどのような回答を求めているのかを分かりやすく伝えられるよう見直しを図ってまいりたい。
2	エコアクション21について、新規に取得する企業がある一方で、更新をせずやめていく企業もあるため、引き続き頑張してほしい。	引き続き取り組みを進める。
3	リサイクル率を算出するにあたっての分母はどのようなになっているのか。	リサイクル率の計算は（総資源化量）／（ごみ総処理量）。 なお、総資源化量は、資源ごみ量、使用済乾電池量、施設資源化量、集団回収量、小型家電回収量の和。
4	2022年に予算執行できなかったから事業の実績値がよくなかった、などそのあたりの関連付けはしているのか。	例えば、予算的にはコロナの影響でイベントが中止、縮小した場合は、補正で予算を減額するなどしている。
5	最後のページで、実績値が悪くなった7指標ほとんどが、コロナの影響が大きいとの分析であった。これが波及し、令和5年度、6年度も低下していく項目があるのかは解析しているのか。	昨年度の審議会で報告したものよりも、今年度さらに下がった項目は、「身近なところで、生き物とふれあえる場や機会があると思う人の割合」「倉敷市の景観を良くする取組に関わりたいと思う人の割合」である。コロナ禍で市民の気持ちが離れてしまったというのが一つ原因となっており、また気持ちを取り戻すのに力が要るのではないかと考えている。

3 「倉敷市生物多様性地域戦略」の進捗状況等について

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
1	1-①について、市民参画という目的と、生き物調査という目的の2つがあると思う。生き物調査のウエイトが大きいのであれば、プロジェクトチームを立ち上げて専門家を交えて調査した方がきっちりとした結果が出る。今回の場合は生き物調査のウエイトが大きいのではと思う。 この得られたデータの価値というのはどの程度あるのか。	本調査は専門的に計画し網羅的に行った調査ではなく、市民に参加をいただいで、自然により興味を持っていただくことを主眼にしている。そのため、調査の正確性という観点で見れば、それほど高くないと考えている。 ただ、その中でも、一般的に考えられる傾向が結果に出てきている部分もあり、継続して行うことで何らかの傾向がつかめるものがあるのではと考えている。
2	スポット調査であっても記録がきちんと残っていれば、その生物が存在していたなどの証拠となる。また、調査の価値については長い時間が経たないとわからないため、きちんと記録に残してストックしておくことが大事である。	—

4 大気常時監視測定局の適正配置について

ご意見、ご質問等なし

※補足事項：審議会時の回答以外で、委員の皆様にお知らせすべき内容・市の考えなどを補足したもの